

様 式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K00798

研究課題名（和文）エジプト・コプトの染織品とインド更紗の制作年代および制作地の特定に関する研究

研究課題名（英文）A study on the production period and the place of Egyptian Coptic textiles and Indian dye textiles

研究代表者

須藤 良子（SUDO, Ryoko）

大妻女子大学・家政学部・講師

研究者番号：20573190

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の美術館が所蔵するエジプトの遺跡から発掘されたコプトの織物についての基礎研究である。乾燥した気候から、当地で織られた多くの染織品が出土しており、それらをコプトの染織品という。これらの多くは綴れ織りの羊毛の衣服類だが、インドで制作されたと考えらる綿のブロックプリントの断片も含まれている。これらのインド製と思われる染織品がいつ頃作られ、どの地域で制作されたのかを明らかにし、4世紀頃から14世紀頃までのエジプトとインドの交易や文化交流について考察した。研究の結果、最も古い染織品は7世紀後半ころのもので、多くが13世紀から15世紀のもので染織品の交易は近世に盛んであったことが判明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では女子美術大学美術館が所蔵する8点のインド更紗について、放射性炭素年代測定をし制作年の特定を試みた。その結果、1点が8世紀頃、1点が13世紀、6点が15世紀の制作と推定された。制作地に関する研究は今回結論を出すことができなかった。世界にはコプトの染織品が10万点以上あると言われており、日本に約2万点の作品が美術館等に収蔵されている。しかしコプトの染織品研究は進んでおらず、海外の研究においても各人が独自に研究するというスタンスである。本研究のさらなるステップとして、海外の美術館と共同研究を進め知見を蓄積し、近世のエジプトー地中海地域の交易と文化交流に関する研究を進めることが可能である。

研究成果の概要（英文）：This study is a basic study of the Coptic textile in Japan that these items were excavated from ruins in Egypt. Many textiles woven here have been remained because of the dry climate and they are called Coptic textiles. Many of them are made from wool and using tapestry weave technique, and they also included Indian block print cotton, which they thought were made in India. The purpose of this study is to identify that the place of production these Indian printed cotton and the date of production of them. Also this study consider about the trade around the Mediterranean sea and cultural exchange from the 4th century to 14th century. The result of this study revealed that the oldest Indian black pint is analysed in late 7th century and others are analysed from 13th century to 15th century.

研究分野：染織史

キーワード：コプトの染織品 インド更紗 地中海交易 放射性炭素年代測定

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19（共通）

1．研究開始当初の背景

これまでに欧米ではコプトの染織品について多くの研究がある（Antoine de Moor 2008, Eunice Dauterman Maguire 1999 他多数）。インド更紗については欧米のみならず日本でもいくつかの研究がある（Amelia peck 2013, 小笠原小枝 1980 他多数）しかし、コプトの染織品と共に発掘されたインド更紗に注目する研究は今までにない。またエジプトとインドという遠く離れた地域を結ぶ研究で、しかも染織品が介在することで文様や制作技法などが変化することを明らかにする研究は行われていない。長い歴史をかけて、人から人、地域から地域へものが移動することによって文化や風俗が変化し技術が発展することは、周知のとおりだが、それを実証することは困難である。本研究では多くの基礎資料の調査によって、それらの制作年代と制作地を特定するとともに、伝播する文様と技法の流れを明らかにするものである。

コプトの染織品に関して

コプトとはエジプトのキリスト教徒を指す。コプトの染織品とは、2 世紀から 12 世紀くらいまでのエジプト・フスタートから出土した染織遺品で、これらはコプトの人々が衣服として着用していたと考えられている。1168 年、フスタートの火災で都市が放棄されてからは都市の存在も忘れ去られていたが、19 世紀後半から 20 世紀初頭に墳墓等が発掘されると、織物をはじめ陶器など多くの出土品が発見されている。特に染織品に表される図像には歴史的、文化的な変遷が読み取れる。5 世紀頃まではギリシャ神話のアポロやヘラクレスなどの神々や人物像、初期キリスト教の図像が多く、8 世紀頃までは旧約聖書の物語や天使像、ビザンティンのモザイクのような模様などが表れる。8 世紀以降になるとイスラム教の影響を受けた花模様や文字が登場し、模様の変遷からエジプトの文化的な変容が汲み取れる。しかも、貫頭衣型の衣服はローマ時代の壁画やモザイクに描かれている衣服を髣髴とさせるため、キリスト教の司祭が着用するローブの原型としても注目された。しかし、多くの出土品は状態が悪く、現在保存されているコプトの染織品の大部分は衣服の断片である。コプトの染織品において一般的に解説される作品の制作年代は、図像解析から得られた推測であるため信憑性に乏しい欠点がある。制作年代についての実証的な研究が望まれるため、過去に科学分析により年代特定されている作品との比較調査を行ない、美術史的な位置づけを行なう必要がある。

インド更紗について

一方インド更紗は、人の手から手へと伝えられた伝世品としての遺品が多い。木綿に人物図や立ち木文様、花文様を描く更紗は、複雑な染めの工程を経るため、長くインド以外の国では制作が難しいものであった。それゆえ、インドネシアやタイなど東南アジアの国々、ペルシャにも古くから更紗が流通しており、16 世紀頃からはヨーロッパでも人気を博し、日本にもこの頃に伝えられた。更紗は各国で需要があったため、各地域の好みを反映した図像を染めている。また制作地に関しても、17 世紀には東ヨーロッパのアルメニアでインド更紗と同様の技法で同じような文様の更紗を作っていたことが分かっている（深沢克己、2007）。多くの染織品同様インド更紗も制作年、制作地ともに明確にすることは困難で、科学分析や類例調査などの基礎研究を進める必要がある。

エジプト・フスタートで発掘されたインド更紗について

申請者は多くのコプトの染織品を調査する中で、インド更紗がコプトの染織品と共に保存されていることに注目した。これは当時のエジプトに大量のインド更紗が輸入され、流通していたことを物語る。また文様に注視すると、今日の通説になっているイスラム文化の影

響で文様も変化したとする説に疑問を抱いた。コプトの染織品に表れる文様の変化には、インド更紗が介在した可能性も考えられ、これまでのような一方向の単純な変化ではなく、もう少し複雑な過程を経て、文様も変容したのではないかと考えている。そこで、エジプトで発掘されたこれらのインド更紗を精査し、制作年代と制作地の特定を試みる基礎的な研究を行なう。エジプトで発見されたインド更紗は 12 世紀頃までのものと考えられるが、年代測定と文様の傾向を分析し、多数の類例との比較調査を行ない、基礎資料となる作品の特定を試みる。この研究は年代の特定が難しかったインド更紗の変遷を考える上でも重要な研究と考える。制作年や制作地の歴史的な研究が困難であった染織史研究に寄与できる。

2．研究の目的

染織品は職人が作り上げる日常品であり、商品として流通しているため、制作年代や制作地の特定が難しい。本研究は、2 世紀から 12 世紀に発掘されたエジプト・コプトの染織品と同地域から出土したインド更紗を調査し、制作年・制作地の特定を行なう基礎研究である。この研究から、人から人、地域へと広がる染織品の文様・技法が時代と共に変容する過程を読み解く。先行研究ではコプトの染織品、インドの更紗それぞれ個別に研究されていたが、エジプトで発掘されたインド更紗を軸に、コプトとインドの結びつきを研究するものはない。本成果は美術史、歴史学、経済史などの研究に寄与できる。

3．研究の方法

(1) 基礎調査の資料を作成する。

コプトの染織品は 3600 点の調査（1670 点は終了）とインドの染織品 330 点の調査（終了）を行ない、基礎調査の資料を作成する。いずれも女子美術大学が所蔵する染織コレクション（女子美染織コレクション）の調査である。基礎資料の調査内容は 作品の撮影 採寸 材質の特定 技法の特定 文様の分類の 5 項目である。この調書をもとに国内外の美術館が所蔵している類例調査を行なう。

(2) 国内、国外での類例作品調査を行なう。

国内の調査は、女子美術大学美術館（コプトとインドの染織品）東京国立博物館（コプトとインドの染織品）福岡市立博物館（コプトとインドの染織品）遠山記念館（コプトの染織品）名古屋市立博物館（コプトの染織品）広島県立博物館（インドの染織品）東京芸術大学美術館（コプトの染織品）など。国外の調査は、ヴィクトリアアルバート美術館（イギリス）メトロポリタン美術館（アメリカ）ウィーン装飾美術館（オーストリア）ブタペスト装飾博物館（ハンガリー）など。

(3) 放射性炭素年代測定法による年代測定

コプトの染織品と同じ地域で発掘されたインド更紗 10 点の年代を特定するために、炭素年代測定法を行なう。既に分析を行い年代が特定している女子美染織コレクションのコプトの染織品 11 点と文様の比較分析を行なう。

(4) 類例調査と年代測定による分析

国内外での類例調査の結果から、文様、技法、素材などを分析する。また年代測定の結果を踏まえ、2 つの調査を鑑み、対象作品の年代特定と制作地の特定を試みる。

4 . 研究成果

(1) 基礎調査の資料を作成する。

コプトの染織品は 3600 点の調査 (1670 点は終了) とインドの染織品 330 点の調査 (終了) については現在も継続中であり、資料は作成途中である。調査では 作品の撮影 採寸 材質の特定 技法の特定 文様の分類の 5 項目を実施しているが、将来的にはデータベース化し、すべての情報を発信できるような体制を整えたいと考えている。これらの作品調査情報は、2019 年 11 月に女子美術大学美術館で開催された展覧会「コプトの染織」に活用された。

(2) 国内、国外での類例作品調査を行なう。

国内の調査は、女子美術大学美術館 (コプトとインドの染織品) 福岡市立博物館 (コプトとインドの染織品) の所蔵品の調査を実施できた。国外の調査は、ヴィクトリアアルバート美術館 (イギリス) アシュモリアン美術館 (イギリス) での作品調査を実施した。またコプトの染織品と同じ技法である綴れ織りで織られ、制作時期も 12-15 世紀と類似するアンデスの染織品を調査した。調査地はペルー・リマの天野テキスタイルミュージアムである。アンデスの染織品とコプトの染織品を比較することで、繊維の太さの違いや織り密度の違いにより、織り出される文様表現が相違することも理解できた。

(3) 放射性炭素年代測定法による年代測定

コプトの染織品と同じ地域で発掘されたインド更紗 8 点の年代を特定するために、炭素年代測定法を行なった。既に分析を行い年代が特定している女子美染織コレクションのコプトの染織品 11 点と文様の比較分析を行なった。この研究は、2021 年 3 月に発行される『女子美術大学研究紀要』第 51 号に投稿予定である。(投稿締め切り日 2020 年 8 月 31 日)

(4) 類例調査と年代測定による分析

国内外での類例調査の結果から、文様、技法、素材などを分析する。また年代測定の結果を踏まえ、2 つの調査を鑑み、対象作品の年代特定を試みた。これらの研究成果は 2018 年姫路市美術館で開催された「イメージを織る」展、2019 年に女子美術大学美術館で開催された「コプトの染織」において公開された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 須藤良子	4. 巻 55
2. 論文標題 Report on Coptic Textiles in the Collection of Ashmolean Museum	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大妻女子大学家政学系研究紀要	6. 最初と最後の頁 187、189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 SUDO Ryoko	4. 巻 54
2. 論文標題 Report on Coptic Textiles and Pre-Columbian Textiles Research	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大妻女子大学家政学系研究紀要	6. 最初と最後の頁 91-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須藤良子	4. 巻 725
2. 論文標題 エジプト・コプトの染織品とインド更紗の制作年代および制作地の特定に関する研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 34 37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩永悦子	4. 巻 8
2. 論文標題 エジプトにわたったアジュラック技法の蓮華文様インド更紗について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 福岡市美術館紀要	6. 最初と最後の頁 1 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1．著者名 須藤良子	4．発行年 2018年
2．出版社 姫路市立美術館	5．総ページ数 47
3．書名 イメージを織る	

1．著者名 須藤良子	4．発行年 2020年
2．出版社 女子美術大学	5．総ページ数 65
3．書名 コプトの染織品	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6．研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	岩永 悦子 (IWANAGA Etsuko) (10590440)	福岡市美術館・運営部・学芸課長 (87115)	